

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

令和6年3月4日～令和6年11月4日

活動名	天霧山・二反地川・瀬戸内海・弘田川・さぬき富士・五岳山ビューポイント創出活動	
活動団体名	舟岡山未来プロジェクト活動組織(環境保全隊、子育て隊、舟岡山・弘田川ラグーン研究会) 共同 ボート隊・釣り隊・青年隊・海外隊 (草の根活動―地域資産の発掘へ。)	
活動目的	・54年前の舟岡山頂上(香川県仲多度郡多度津町)からの360度パノラマを取り戻すこと。 ・生物多様性に果たす里山の二次的な自然環境の役割を考え、里山の手入れを継承するシステムを考える。関係人口を増やす。活動組織の保全技術を高揚する。 ・陽のさす明るい森にし、里地の方々のシンボルの復元、こどもたちの森林体験の場の創出。	
活動内容	・舟岡山の地主個人の下草刈&活動組織+応援者による集団活動は月1～2回の割で新作業地を追加して継続中。特に荒廃した真竹藪・立ち枯れ材のある新作業地内での格闘中です。 ・昨年の巣箱の設置・緑の募金による植樹後の管理・観察を継続しています。(内容の充実) ・森・里・川域のつながりの体験として、「みどりの学校」田舎フィールド山・川・田・古民家での自然体験を、山の環境保全隊・川の釣り隊・海のボート隊の合同で、実施しました。ボートに乗船しての水質検査・竹竿つくり&川釣りによる生物調査・真竹による竹飯・遊休田の芋栽培&食などの自然体験活動をオープンな応募により実施しました。活動隊の共同体制構築と外部参加者のみなさまとの交流拠点域の出発点と位置付けています。(この地に根ざす活動の輪のひろがり、準指導者の育成目標) ・CLTベンチを、県立多度津高校生有志により、田と山の頂上に設置しました。(景観・技能の伝承)	
活動写真		
写真説明	ボートに乗り水質検査&生物調査・竹で炊飯&川釣り	森里川にての自然体験(竹飯・竹釣竿発見)
活動効果	・田舎フィールド山・川・田・古民家での自然体験からの気づきの発掘として①②④がありました。 ①駐車場整備・舟岡山麓の環境保全・川活動の安全性に対して地元の静かな応援の動きを確認しました。集落の将来への不安を直に話してくださる方々が生まれています。(存続への思い) ②次世代の準指導者の育成となり、エリア域の特定の地域課題を、新しい仲間とともに「どうやったらできるか」を考えています。山からの領域を広げた活動でしたがチームの一体感が育ちました。	
今後の展望	①環境保全隊にて、小さな荒廃した山の環境保全中の従来の域・0.48haの継続とともに、隣接する藪化した竹林0.11haの処理、作業道の制作中です。← 森林セラピー域(コナラ林のトンネル)・自生松林の生育を考えています。変わらず残すものも大切にしたいと思います。 ②舟岡山・弘田川ラグーン研究会の成果を、この地の森里川海のつながりを古代の歴史と関連付けて、道案内看板の記載内容の検討、看板設置準備に入ります。(みどりの募金活用) ③現状の暖かい気温を利用して、舟岡山の腐葉土を利用しながら、秋ヒマワリ・秋コスモスの種を遊休田に蒔いて、冬季生育の状態観察をし、次年度計画の花迷路作成の前の試行をしてみます。 ④開かれた共益の流れが生まれていますので、ベース基地の再生古民家棟(未来邸)の運営基盤の確立を模索します。量より質の成長を基底にタスクフォース型コミュニティの公開説明時期を検討します。	